

学校名	兵庫県立神戸特別支援学校
1 ICTを活用した自立活動指導の実際	
(1) 指導期間・指導時数 6月20日(月) 14:00～15:15 9月15日(木) 16:00～17:00 11月21日(月) 16:00～17:00 (2) 使用した遠隔システム Zoom (3) 指導目標 ○長期目標 ・発声や表情、身体の動きで自分の気持ちを他者に伝えることができる。 ・自ら手指を動かして、感触の違いに気づくことができる。 ・絵本を見て、ページをめくることができる。 ○短期目標 ・さまざまな感覚刺激を通して、教師とのやりとりをすることができる。 ・自ら手指を動かして、温度や質感の違いを感じることができる。 ・絵本のページをめくることができる (4) 自立活動の区分・項目 コミュニケーション (1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること (2) 言語の受容と表出に関すること 身体の動き (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること (5) 指導内容 [単元目標] 様々な感覚刺激を通して、感じたことを発声や手の動きなどで他者に伝えようとする。 1回目の授業では、水の温冷差や乾いたマカロニ、茹でたマカロニの感触の違いを触って感じる活動を行った。 2回目の授業では、乾いたパン粉と湿らせたパン粉の感触の違いを感じたり発泡ビーズ入りバルーンを触ったりする活動を行った。 3回目の授業では、乾いたはるさめと水に浸したはるさめの感触の違いを感じたり、砂を触ったりする活動を行った。	

(6) 指導の手立て

- ・絵本や教材を提示するときは、児童の目線に合わせて、ゆっくりと提示するようにした。
- ・MT や ST の言葉かけもゆっくりとしたテンポで児童に分かりやすいようにした。
- ・児童の発声や身体の動きを受けて、教師が言葉にしてフィードバックする活動に重点を置いた。

(7) 指導上の工夫

- ・様々な感触の教材を準備して、児童の表出を促した。
- ・絵本の読み聞かせでは、電子黒板に映して児童が絵本の内容を見ることができるようにした。
- ・児童の活動の様子を撮影し、授業の振り返りで動画を見ながら活動を振り返ることができるようにした。



指導の様子



スピーカーフォン

※指導の様子の写真は、第2回目の「遠隔システムによる指導」の場面である。スピーカーフォンは、「遠隔システムによる指導」の際に、有効に活用することができた。

(8) 校内の指導体制

小学部肢体不自由クラス児童4名

小学部肢体不自由クラス担任4名

(9) 関係機関との連携（在籍校・保護者・医療・福祉等）

武庫川女子大学 教育学部 橋詰 和也 教授

2 成果と課題

児童生徒の変容

(指導開始前)

- ・活動にやや消極的なことがある。
- ・教材に対する興味・関心が低いことがあり、追視をしたり手を伸ばしたりすることが少ないこともあった。

(指導開始後)

- ・STの言葉かけを受けて自ら手を伸ばして教材に触るなど、積極的に活動できることが多くなった。
- ・教材に対する興味・関心が持てることが多くなり、絵本を追視したり、教材に手を伸ばしたりすることが多くなった。
- ・活動内容によって、児童それぞれの手の動かし方が違っていたり、教材の追視や手の伸ばし方が違っていたりと、教材に対する興味・関心を自分なりに表現することが多くなり、STとのコミュニケーションの幅が広がった。

成果

- ・様々な教材に触れることで、児童のアプローチの仕方の違いが明確に出る時が多くなり、発声だけでなく、表情や身体の動きを通してMTやSTとのコミュニケーションが行えるようになってきた。
- ・絵本の読み聞かせの際に内容を電子黒板に映すことで、全体で進捗状況を共有しながら進めることができた。
- ・活動の様子をiPadで撮影し、振り返りの際に電子黒板に映すことで、他の児童の活動を共有することができた。

今後の課題

- ・感覚刺激を通したコミュニケーションを行ったが、発声や表情、身体の動きで気持ちを表出する場面を日常生活の様々な場面に汎化させていくことが必要である。
- ・今回は、「快」の刺激をメインに活動を行ったが、今後「不快」な刺激のある活動を取り入れ、気持ちの表出や、他者への伝え方などの活動を体験的に行っていき、より深くコミュニケーションをとれるようにしていきたい。
- ・ICT機器を今後の授業にどのように生かしていくかの再検討が必要である。

【遠隔システムを活用した指導】について

- ・直接来校して授業を見学していただく際のメリットとして、より「詳しく」「細かく」児童の活動や動きを見ていただけることがある。今回は事前に授業の様子を撮影する際、3台の固定カメラと、1台の手持ちカメラを活用したため、講師からも「児童の活動の様子がよく分かる。」と好評であったが、機材の準備や動画の編集に時間がかかってしまった。今後は直接来校と遠隔によるシステムのメリットを掛け合わせたハイブリット方式で進めていけたらいいと考える。

**3 ICTを活用した自立活動指導についてのコメント
(児童生徒、保護者、教員等の声)**

- ・遠隔システムを活用して、事後検討会を開催できてよかった。
- ・感染症予防対策により、直接来校が難しいケースが増えており、今回のような形で研修等が行えるのはいいと思う。
- ・場を問わずに参加できるため、多様な働き方（在宅勤務など）につなげることができると思う。